

学校教育におけるデジタルトランスフォーメーションを

適切に進めるための意見書

討論要旨 芦原美佳子議員

新型コロナウイルス感染拡大は、世の中のデジタル化、オンライン化を進める契機となり、社会全体のデジタルトランスフォーメーション、DXが急激に進んでおります。これからの社会において、一人一人の児童生徒に情報活用能力を身につけさせることはますます重要となります。

教育現場では、児童生徒に1人1台の端末を設備するGIGAスクール構想が進められ、デジタルドリルやデジタル教科書の活用等、多様な学びの実現や質の向上、教員の負担軽減などへの期待が高まっております。

また、不登校の児童生徒への学習支援への活用や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難の軽減など、多くのメリットが期待をされております。

一方、様々な課題も指摘されており、主体的、対話的で深い学びの実現や情報活用能力の育成のためには、全ての教職員が情報端末を活用した一定レベルの授業を行うことができるよう、情報モラルの指導も含めた教職員のICT活用指導力の向上が求められます。

また、デジタル教科書は、学校から貸与された端末を使用して学校のシステムに接続する必要があることから、他自治体への転校の際などにも、学びが継続できる環境整備が必要です。

さらに、本年3月と6月に文部科学省の有識者会議が公表したデジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議の報告では、令和6年度からのデジタル教科書の本格導入を目指すに当たり、紙の教科書とデジタル教科書の使用について、考えられる組合せ例に紙の教科書を全てデジタル教科書に置き換える例も含まれておりますが、デジタル教科書のみを使用した場合には、学習の基本能力である読解力の低下が懸念をされております。

以上を踏まえ、意見書に掲げる4項目は、学校教育にICTを浸透させ、さらなる充実を図るため、DXの実現に向けて不可欠であると考えます。教育現場のDXが実現し、誰もが質の高い教育を受けられるようになり、その中で育った若い人材があらゆる分野で活躍することを願います。